



①活動概要 / 観光客の入り込み減少という危機感に直面し、その閉塞感の打開策として、自治体単位の個体ではなく、ルート内広域での連携活動を分科会で積み重ねて、「宗谷」という地域をブランドとした観光誘致の仕組みを構築するための具体的な取り組み

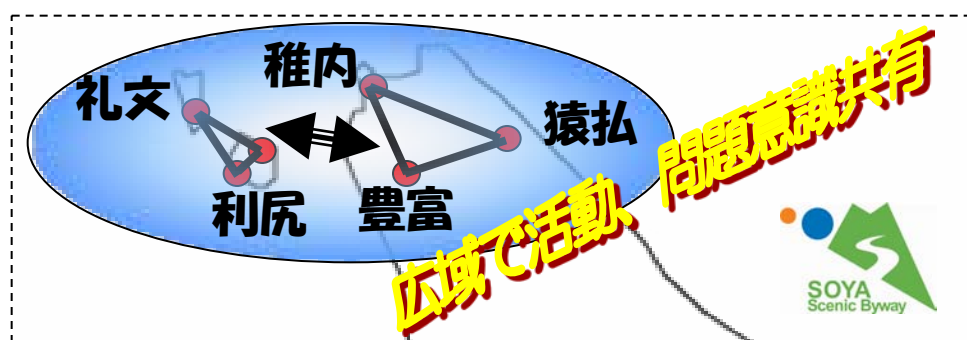
②活動の体制 / 宗谷シーニックバイウェイ観光・情報分科会、稚内観光協会、利尻富士町観光協会、利尻町観光協会、礼文町観光協会、豊富町観光協会、猿払村観光協会、宗谷バス(株)、ハートランドフェリー(株)、北宗谷広域観光推進協議会

③苦勞した点や工夫した点

- ・点で行っていた観光誘致を、エリアで展開したこと
- ・共通の課題を見出し、それを面で解決できないかという取り組み
- ・弱い地域を強い地域がカバーする助け合いの仕組みづくり
- ・情報、資金、活動における共有化

④活動の効果 / これまで各々観光業界に従事していた関係者が、ルート内を“点”ではなく“線”や“面”で捉える意識が醸成されてきている。また、ルート内の市町村で「北宗谷広域観光推進協議会」を設立するに至り、平成21年9月には稚内・利尻・新千歳を結ぶチャーター便就航が実現した

⑤今後の活動 / 従来のトップセールスと旅行会社招聘活動を続けながら、近年の観光客のニーズの多様化、小グループ化にも対応するための基盤整備も並行して推進する。それぞれの地域の問題点を、自治体という枠を越えて道と航路で結ばれるルート内広域で共有しながら、一緒に考え改善にすることをはじめ、景観・環境分科会に対して観光産業界として積極的に支援をしていくことで活力ある地域を創出していきたい



首都圏・中部圏に各観光協会長がトップセールス訪問  
(平成19年9月)  
(平成21年1月・11月)



旅行会社からの要望と、当地の魅力や思いを意見交換  
(平成20年1月・9月)



稚内・利尻・新千歳を結ぶチャーター便の就航が実現  
(平成21年9月4～6日)



様式2 (★指定ルート)

ベストシーニックバイウエイズ・プロジェクト2009

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| ルート名                          | 宗谷シーニックバイウエイ  |
| 活動の名称                         | 観光業界の広域連携実現へ向けて   |
| 活動期間                          | 平成19～21年度   |
| 評価の視点                         | <p>① 過去3カ年にわたり継続的に実施してきており、今後も可能な限り永続的に続けていきたい</p> <p>② これまで個々に活動してきた事業がこの取り組みにより相互で連携を取るようになり、今では各観光協会でも年中事業として捉えていただいている</p> <p>③ “みち”をきっかけとした「魅力ある観光空間づくり」に直接寄与する形となり、連携による公的な協議会の設立はルートにとっては頼もしい</p> <p>④ 観光関連業者や自治体とも連携した「北宗谷広域観光推進協議会」へ昇華させた</p> <p>⑤ これまで各々従事していた関係者同志が、ルート内を“点”ではなく“線”や“面”で捉える意識が醸成された</p> <p>⑥ この管内における広域連携が、やがて全道一円での観光の広域連携のモデルケースとなるよう努力していきたい</p>  |
| 1. アピールポイント                   | <p>ルート内の各市町村は、それぞれ日本全国に誇れる観光資源を持っていながら、不況やニーズの多様化のあおりを受けて、観光客数や経済的効果は右肩下がり傾向を続け、現在においても底を見せていない状況です。</p> <p>しかし、この強い危機感を背景に抱えながら、観光分科会(現:観光・情報分科会)の活動である「観光協会長サミット」などを通じて顔をつきあわせていくうちに、閉塞感の打開策として広域でプロモーションをしようという気運が出てきました。広域での活動を分科会内で具体的に積み重ねて、新しい形の観光エリアを構築しようとしているのがこの取り組みです。</p> <p>東京を中心とする首都圏と名古屋を中心とする中部圏を主なターゲットとし、全日空様の協力を受けて、ルート内の各観光協会長と、アクセスの中心を成すバス会社、フェリー会社がトップセールス訪問団を組織し、両地で旅行会社を招いての説明会を3度開催しています。また、質の高い旅行商品の企画・造成につなげてもらうことを願い、当ルートへ旅行会社の方々に実際に足を運んでもらい、当ルートの魅力の認識度向上と地元の関係者への要望をお互いに肌で感じてもらう取り組みも2度行っています。</p> <p>これらの活動が実を結び、ルート内市町村で「北宗谷広域観光推進協議会」を設立するに至り、平成21年9月には稚内・利尻・新千歳を結ぶチャーター便就航が実現しました。この協議会はANA総合研究所からアドバイザーを招いて、ルート内の個人型観光客の基盤整備も3カ年計画で実施していきます。</p> <p>一連の活動は自治体を跨いだ波及効果として現れています。利尻島は2町別々に観光パンフレットを製作していましたが、2町合同で「ひとつの島」として製作するようになり、その翌年には礼文島も含めた離島エリアで1冊のパンフレット製作が実現したことなどが好例としてあげられます。</p> <p>ルート内の観光に関する取り組みは“点”の集まりから“線”のつながりへ進化し、迎える人々も訪れようとする人々も“宗谷”という“面”でとらえてもらえることを理想として、今後も精力的に活動を続けていきます。</p> |
| 2. 創意工夫、苦労した点(前回からの改善、向上させた点) | <ul style="list-style-type: none"> <li>点で行っていた観光誘致を、エリアで展開したこと</li> <li>共通の課題を見出し、それを面で解決できないかという取り組み</li> <li>弱い地域を強い地域がカバーする助け合いの仕組みづくり</li> <li>情報、資金、活動における共有化</li> </ul>   |